

## 業務推進会議報告 長岡地域

専務理事 鈴木 和彦

第28回全税共VIP・年金全国統一キャンペーンが平成25年9月から11月迄の3か月間開催されることを受けて9月2日長岡グランドホテルにおいて税協長岡地域の業務推進会議が午後5時30分より開催された。生保関係では、朝日生命、第一生命、日本生命、明治安田生命、住友生命、ジブラルタ生命、メットライフアリコ生命、アイエヌジー生命、オリックス生命、三井住友海上あいおい生命の10社から合計33名そして協同組合からは28名の総勢61名の出席があった。

業務推進会議第1部は佐野賢一副地域長の司会のもと、大矢地域長の「おぼんです」の掛け声で会議が始まった。冒頭大矢地域長から、「こんなに大勢の皆様から集まっただき会議を開催したことは過去に記憶がない」と謝意を述べた後、全税共の基本理念の説明があり、次に税協の収益活動の柱が保険手数料収入であり、その収入が税理士会の活動に還元されることで税理士会会員が恩恵を受けているという、税協と税理士会とのかかわりについての説明があった。続いて県税協の片山理事長より挨拶があった。理事長は自身も協同組合の存在意義が良くわからなかった過去の経験を引用し、税理士会会員に対し協同組合の存在意義を引き続き伝えていきたい旨の発言があった。そして保険会社と税理士が連携を保ちつつキャンペーンが成功裡に終了することを祈念して結びの挨拶とした。

次に全税共（VIP）幹事会社の朝日生命新潟支社職域法人担当マネージャー萩島博史様から

最高最大の成果を得るべく頑張る旨の挨拶を頂いた。引き続き全税共（年金）幹事会社の第一生命長岡支社営業推進統括部長江口智恵子様から全税共キャンペーンの表彰基準が昨年比10倍に手厚くなったことへの謝意と、このことに勢いを得て更に頑張りたい旨の挨拶があった。次に協議及び報告事項に入り、県税協の笠輪常務理事よりZ1、Z2キャンペーンについての説明があり、続いて保険会社に対してはキャンペーンが税理士事務所関与先の開拓のチャンスであること、一方税理士会員に対しては顧客のリスクマネジメントのきっかけにしてほしい旨の説明があった。続いて参加各生命保険会社10社からキャンペーンに向けての決意表明と商品紹介があり、その後県税協の今井理事の挨拶により第一部を終了した。

第2部の懇親会は隣の部屋に会場を移して行われた。初めに開宴の挨拶として、税理士会長岡支部の丸山支部長から協同組合に入る保険会社からの手数料が税理士会長岡支部会員の活動に有効に使われていることについて謝意があった。続いて日本生命長岡支社長藤原哲哉様より、本日参加している生保10社を代表し改めてキャンペーンを成功させる旨の決意表明があった。その後県税協の田中顧問の発声により乾杯が行われた。会場には県内の有名な地酒が10本ほど用意され、地酒で喉を潤しながら和やかな雰囲気の中で保険会社各社の営業職員と税理士会員の懇親が続き、午後8時20分有意義な業務推進会議が終了した。

## 高田地域業務推進会議の報告

～「高田地域のおもてなし」～

副理事長 角谷 潔

9月13日（金）に片山理事長と二人で高田地域業務推進会議に参加して参りました。午後5時30分から会場「うみてらす名立」において高田地域組合員・賛助会員14名（高田地域の県税協役員含む）、提携会社11社19名、高田事務局1名、総勢34名の出席があり小山地域長の司会で始まりました。毎年9月から11月まで全税共全国統一キャンペーンが行なわれるためにこの時期に県内各地域において全税共提携生命保険各社との業務推進会議を行なってきたのですが、各地域においては全税共以外の提携会社との交流ができる機会がない、また別に設けるには適当な日が無いとの理由から、新潟県税理士協同組合では一昨年からそれらも加えての会議となるよう図ってきたところです。高田地域ではその旨から11社もの参加があり大勢の会となりました。

冒頭片山理事長から「提携会社が税協を通じて収益を挙げることは、全税共もうるおい、新潟県税協もうるおい、諸々の活動費の原資となって組合員・賛助会員にめぐってくるので協同組合活動に参加ご協力お願いします。」とのあいさつがありました。

次に各提携保険会社等から各会社約3分間で自己紹介と会社及び保険紹介がなされました。高田地域の主催者がよほど時間厳守をお願いしたのか、各会社ともアピールが大変要領よくまとめられ、そのことがかえって有意義に感じられました。全部で約40分で終わり、予定より20分早く第2部懇親会への移行となりました。

第2部は、金子高田支部長の楽しいおもてな

し発言で始まりました。遅れて参加の保険会社の挨拶があり「遅れて来ましたが、既にVIP金賞獲得の人を連れて来ました。」の発言に拍手。続いて笹川専務理事の乾杯発声。ここ「うみてらす名立」は鮮魚市場も兼業しているので鯛の舟盛りなどたくさんの魚介類のおもてなしで、参加者一同驚き、おいしく、楽しい祝宴となりました。酒が入ると本来の趣旨である各地域の営業所の職員と組合員・賛助会員との交流に話はずきない様子でした。毎年の会議とはいえ、新入組合員で初めての参加もあり、協同組合も税理士会と共にあるんだというアピールになるよう期待するところです。こうして夜が更けるのでした。

ちなみに、高田地域では健康ウォークの後に業務推進会議をするのが毎年の慣例で、今年は北陸本線の頸城トンネルの中にある「筒石駅」で下車。「鉄ちゃん」ばりの「特急はくたか号」が通過する風圧を感じるため、上り列車だけでなく下り列車も通過するのをまって、そこからウォークして「うみてらす名立」に至ったということでした。



## 税理士協同組合チャリティゴルフ大会

福利厚生担当常務理事 牛腸 康則

去る9月9日、長岡カントリー倶楽部において、74名の参加者により、毎年恒例の「新潟県税理士協同組合チャリティゴルフ大会」が開催されました。前日は雨模様で心配しましたが、当日は晴れて絶好のゴルフ日和となりました。

福利厚生担当の私はゴルフをやらないので、表彰式から参加するため、午後からの会場入りでした。会場に到着した頃には、すでにホールアウトした方々がおり、入り口で挨拶を交わした時のみなさんは風呂上がりのすがすがしい表情？でした。

4時ころには表彰会場に参加者がそろって、いよいよ表彰式です・・・

今大会の最初の打合せの時、実はトーピン賞ってどんな賞？と思いましたが誰にも聞けず、トーピン賞がグリーン上でピンから一番遠かった人への賞だと、帰ってパソコンでググって知るほどゴルフ知識が乏しいものでした。はじめての表彰式の仕事ということもあり、ドラコン賞とドラタン賞の賞品を取り間違えたり、

ブービーメーカーにブービー賞を渡したりして、皆さまには大変失礼しました。そのような私を優しく見守っていただいた参加者及び税協役員の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

来年も、今回参加されたみなさまをはじめ、ゴルフをされる方は、税理士協同組合チャリティゴルフにご参加ください。

なお、今大会の参加賞は、東日本大震災の被災地応援もかねて、甚大な被害に遭った宮城県女川町の蒲鉾をご用意させていただきました。

今回の成績上位3名は、以下のとおりです。

優勝 佐久間 茂 治 (新津)

準優勝 辰 喜 秀 雄 (新津)

3 位 井 筒 一 郎 (長岡)

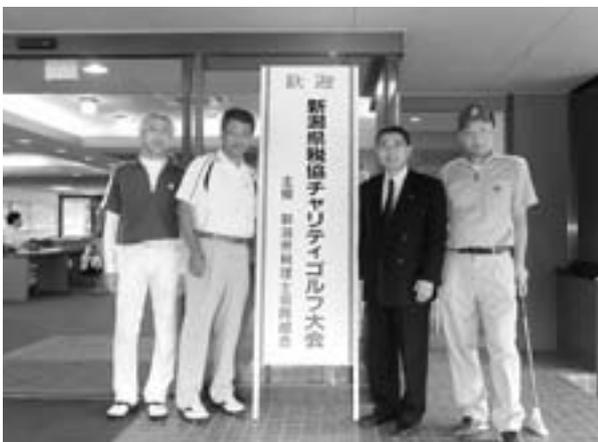
シニアの部

優勝 佐久間 茂 治 (新津)

準優勝 辰 喜 秀 雄 (新津)

3 位 菊 池 明 夫 (新津)

おめでとうございます！



応援に駆けつけた片山理事長と税協役員



県連ゴルフ大会に続き、一般シニアW優勝の新津支部佐久間氏

## 実務研修会を終えて

教育情報担当常務理事 成田 俊郎

平成25年10月1日、ホテルニューオータニ長岡において、新潟県税理士協同組合主催の実務研修会を開催いたしました。研修会は一昨年続き、税理士齋藤雅俊氏を講師にお招きし、「資本等の額が変動する取引の税務・会社法・会計の取扱い」というテーマで行われました。

会員・職員の皆様におかれましては、他の研修会も多く開催されるなか、354名もの多数のご参加をいただき、誠にありがとうございました。

また、今回も当研修会開催にあたり、(財)中小企業災害補償共済福祉財団(あんしん財団)様の協賛をいただき、会の冒頭に、本部税協担当部長 田瀬文夫様よりご挨拶を頂戴いたしました。



講師の齋藤雅俊先生は、昭和55年税理士登録、公認会計士辻会計事務所(現辻・本郷税理士法人)副所長を経て、税理士齋藤雅俊事務所を開設され、税理士会をはじめ多くの研修会の講師

としてご活躍されています。今回はテキストとして本研修会に合わせて改定を加えた「純資産の部の変動・税務実務ハンドブック」(税務研究会)第2版をご用意いただきました。



今回の研修は、「資本等の額はどのような取引でどれだけ減少するのか」という副題で、純資産の部の税務・会社法・会計の取扱いを、減資取引(剰余金の配当を伴わない場合・伴う場合)や自己株式の取得・消却等を題材に、それぞれの会計処理、税務処理、そこで必要となる別表調整を具体的にわかりやすく解説していただきました。

研修会を終えて、受講された皆様は更に自信を深め、日々の業務に益々お力を発揮されるものと思っております。今後も新潟県税理士協同組合の教育・情報事業の一環としてこのような実務研修会を企画・開催していきたいと思っております。皆様の一層のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

## 北海道表彰旅行に行って

長岡支部 井筒 一郎

関東信越税協連共済会の平成24年度北海道表彰旅行が6月30日から2泊3日で実施されまし

た。今年は各県の表彰該当者33名を含む総勢58名の参加で、新潟の出席者は片山和郎理事長、

五十嵐秀夫顧問、山岸博先生、田中由起子先生、北村啓一先生と私の6名でした。

1日目は10時半に新潟空港に集合し、楽しく出発式を行い（ビール・ワインを朝からおいしくいただきました）、12時35分発のANA4781便で新千歳空港に向かいました。宿泊地である札幌グランドホテルに到着すると、新潟チームは休む間もなく場外市場に繰り出し、各自夕張メロンやカニ等の水産物のお土産を購入したあと、市場内の「北の漁場」という食堂に入り、ウニやアワビ・鮭児等のおいしい海産物をつまみながら今度は日本酒を楽しみました。その2時間後の夕食会では札幌グランドホテルのフルコースのディナーを食べながら各県の参加者と親睦を深め、その後静かに札幌の街に消えていきました。

2日目は小樽カントリーでゴルフです。小樽カントリーは2004年から2012年まで男子プロツアーのサン・クロレクラシックが開催された名門コースで、クラブハウスには2009年に優勝した石川遼の写真も飾られていました。コースの林がフェアウェイ付近にせり出しているため、その方向にティーショットを曲げてしまうと直接グリーンが狙えなくなり、横に出すだけで精一杯という状況に何度も陥り、結果は散々なものでした。北海道のゴルフは途中で食事休憩もなく、18ホール連続でプレーするため疲れだけが残ってしまいました。

その日の夕食会はカニの専門店の「氷雪の門」というお店で、カニのしゃぶしゃぶや炭焼き・お寿司等いろいろなカニ料理を満喫しました。普段それほどカニは食べないのですが、とてもおいしく夢中になって食べたことにより、ゴルフの疲れも吹き飛びました。そして、昨日に引き続き夜の札幌の街に消えていきました。

最終日もゴルフです。この日は北海道クラ

シックゴルフクラブというゴルフ場で、帝王ジャック・ニクラウスが設計したコースで、2016年には男子プロの日本プロゴルフ選手権が行われるそうです。このコースはいたるところに池があり、方向や距離を間違えると必ず痛い目にあい、結局ボールをたくさんなくす結果となりました。やはり、ゴルフは曲げないでまっすぐな球を打つことが大事なんだなあ実感しました。この日もスコアはよくありませんでしたが、2日間も北海道の名門コースでプレーすることができとても幸せでした。今度来る時があったならば80台を出せるようしっかり練習したいと思います。

参考までに観光組の行程をご紹介させていただきます。2日目は富良野方面に向かいファーム富田でラベンダー鑑賞（まだ早かったそうです）をした後、新富良野プリンスホテルで昼食をとり、カンパーナ六花亭を見学するというコースでした。最終日はノーザンホースパークで牧場見学・昼食のあと空港に向かうコースでした。食事がとてもおいしかったそうです。

最後になりますが、来年もこのような素晴らしい会に参加できるよう、関与先への保険指導を一生懸命頑張っていきたいと思います。今回お世話になりました多くの皆様に感謝申し上げ北海道旅行の報告とさせていただきます。

